

かがやき

令和5年 12月 8日 (金)
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 11

すべての「感覚」を総動員・「授業」は

マルチタスクが満載の時間

各教室での行動観察の時間では、特別支援教室の教員が教室での子ども達の取り組みや、学習環境等を観察します。その中で感じることは、45分という時間の中で子供たちは、多くの作業に同時に取り組み、学習しているということです。今回は、日々取り組んでいる授業にどれだけ子供たちの「注力」が必要か整理してみました。

まず、授業開始の時間です。時間を意識して教室に戻り、着席します。授業開始までに必要な学習道具を、ランドセルや机から準備します。着席時は、お尻が椅子から落ちないように姿勢を調節します。教壇に先生がいること確認し、周囲のざわめきや廊下から聞こえる音が気になる時もありますが、先生の声に意識を向けて話を聞きます。話の内容によっては、傾聴への時間が長く求められることもあります。学習に必要な準備(教科書を開く/ノートを出し、今日使うページを準備/机のスペースは限られるので物は落とさないように並べる/必要に応じてタブレット端末も準備等々)をします。先生が黒板に書いた内容をノートに書き写します。黒板に書かれた箇所を見失わないように目で追い、字形や文章を一瞬で覚え、ノートに写します。字はなるべく字形を整え、マスからはみださずにちょうどよい筆圧で書くことがベストなので、指先、手先への力加減も重要になります。作業中に次の指示がきたり、教科書の説明が始まったりすることもあるので、常時耳や目のアンテナをはっておかなくてはなりません。国語と算数は毎日ある為、週5日・最低10時間はこうしたマルチタスクを実行し、継続する力が必要とされます。

日々何気なくやっている授業内のことでも必要な視覚、聴覚等の集中・切り替え能力、姿勢保持のための筋肉緊張の力等の観点で整理すると、授業の参加に必要な子供の集中力は以上のようなものになると思います。よく子供たちからも「疲れた～」という声を耳にしますが、「そうだよねえ～」という気持ちになります。とは言っても、こうした中で、日々の学習は進んでいきます。大事なことは、自分のバランスを取りながら(必要以上にマイナスにならず、自分の良い部分にも意識を向けてうまくストレスを調節して、疲れを溜め込まずに)学校生活を送ること(必要に応じて支援を受けて)。また、大人は、日々元気に子供たちが登校して授業に参加していることに対して、その背景には多くの子供たち自身の努力や忍耐があつてのこと、と「想像する」ことが大事なのかなあと感じました。何気ない1日の終わりに、子供も大人もお互いに「今日もがんばったね!」と声を掛け合い、エールを送る。そんな場面があつていい「激闘」を過ごしている。そのような感覚も大切にしていきたいと思う振り返りでした。

マルチタスク



～お知らせ～

・今年のかがやき指導は、12月22日(金)までです。

今年も保護者の皆様のご協力により、子供たちの教育活動を円滑に進めることができました。ありがとうございました。来年もよろしくお願いたします。来年は1月11日(木)より指導を開始します。連絡帳等持ち物のご確認をよろしくお願いいたします。

・かがやき個人面談について

前号でもお伝えしましたが、かがやき個人面談を2月～開始します。1月に入りましたら希望調査をとらせていただきますので、ご返信をよろしくお願いいたします。